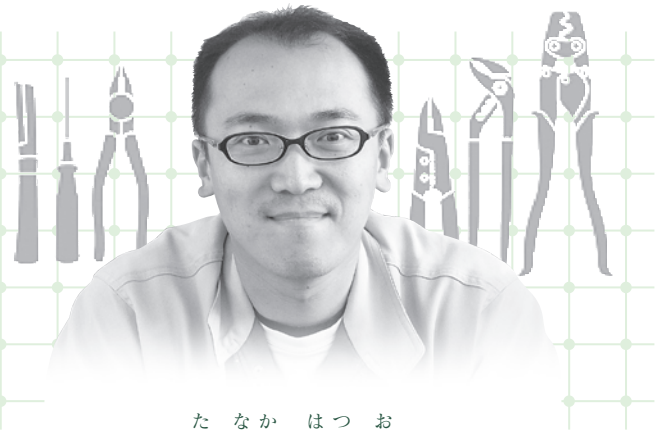


こうほう ショッキング

Vol.86

Kōhō shocking



た な か は つ お
田中 初生さん

●プロフィール

35歳。名古屋生まれ。3歳の時、父の実家である豊玉町貝口へ両親とともに転居。豊玉高校卒業後、福岡にある電気工事の専門学校で1年間学び、帰郷。父の代からの電気工事店で共に働く。仕事柄、島内を車で移動することが多いため、日々のドライブがストレス発散になっているという。休日はDVDで映画やバラエティーを鑑賞する。両親との3人暮らし。

○幼い頃に対馬に転居されたので、対馬生まれといった感覚ですか？

そうですね。専門学校時代は、都会も良いのかなと思ったりしましたが、帰ってくるとやっぱり対馬も良いなあと。都会にはたまに出かければ良いし、住み心地の良いのは生まれ育った対馬ですね。僕の住む貝口地区には海も山も両方ありますが、僕は山のほうが好きです。実は酔いするもので（笑）。

○現在、お父様と一緒に電気工事業を営んでいらつしゃいますか？

父は、名古屋で分電盤を組む仕事をしていたのもあって、実家に戻って今の仕事を始めたようです。僕もモノづくりは好きでしたから、中学生の頃にはもう、父の仕事を継ごうという気になっていました。周囲からも勧められ、半ば押し切られたような気もしますが、長男ですし、もともと対馬には残ろうとは思っていました。

○小さい頃から手先が器用だったのですか？

工作に凝ってました。中学生の時、凧作りが冬休みの課題に出されて、連凧を作ったりしました。よく上がったのを覚えて

います。風に流されただけだったのかもかもしれませんが（笑）。

○生まれ育った地区はいかがですか？

現在は17世帯が暮らしていますが、昔は倍くらいあったのではないのでしょうか。道路も良くなり、車があれば生活には不便さを感じません。この地区では、若手が僕とあと一人くらいで、僕の上の人が50代と間隔が空いています。僕は消防団にも入っているのですが、地域の皆さんから頼られる部分もあります。これくらいの地区だと、困ったことも嬉しいことも、みんなが知っています。一人暮らしの世帯にも声をかけ、繋がりを保つようになっています。地域ぐるみの生活が営まれている良い点だと思います。

○故郷のこれからは？

理想は、このままでいてほしいです。でも高齢化が進んで、変わってしまうのかなという気もしています。まだ想像はつきませんが、自分の故郷に住み続けられるのって、幸せなことだと思います。近所で助け合って暮らしていると、いざという時の助けにもなります。やっぱり繋がりがって大事ですね。

○熊本地震から2カ月。対馬から被災地へできることは？

災害の初期には支援物資を提供したり、義援金を送ったりしましたが、被災地の状況や必要とするものは都度変わっていきます。大切なのは、僕たちが被災地を忘れないこと、いつも気にかけていることだと思います。気持ちが届くことが大事だと思いますので、熊本の商品を買ってあげたりして応援したいです。

○熊本地震では多くの方が生活の復旧に苦労されていますが、

家屋が倒壊したうえ避難所の生活に苦労されている方々の話をニュースで耳にします。そんな中でも「仕事していたら落ち着く」とおっしゃっていた方や、被災しながらも農作業をしてスイカを出荷された方の話を聞くと、いかに日常が大切かと思わされます。僕も今を、そしてこれからも大切に過ごしていきたいです。

毎回、登場してくださった方に次の方をご紹介いたたくこのコーナー。今回は美津島町鴨居瀬にお住まいの山本雅也さんです。お楽しみに。